別 紙

令和 6 年 10 月 25 日

美咲町教育委員会
教育長　黒瀬　堅志　様

評価者　服部　康正
（岡山大学大学院　教育学研究科）

「美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」に関する所見

Ⅰ　はじめに

「令和 5 年度事業対象の美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」について、外部の第三者としての視点で検討評価させていただいた。本年度は第三次美咲町教育振興基本計画（令和３年度～令和７年度）の３年目、丁度中間期に当たる。その観点から美咲町教育委員会が所掌する膨大な範囲の事業の中で学校教育に重点を置いた執行状況について関係資料の提供を受けた。教育委員会と学校が密に連携・協力・工夫し、鋭意努力され、その内容がほぼ達成できていることを高く評価したい。

第三次美咲町教育振興基本計画で示された小中一貫教育の充実を図りながら、令和 5 年度に開校している義務教育学校旭学園の活躍に続き、令和 6 年度開校する柵原学園もそれに続くことを期待したい。

Ⅱ　教育委員会の組織及び活動について

教育委員会の活動は、定例会議のほか研修会への参加、学校訪問など精力的に実施されている。前年度の訪問に加えて図書館の訪問もなされているようで、現場を知ろうとする細かな配慮を感じる。会議の内容は、教育行政の重点目標及び施策、人事、施設管理、予算決算事務、就学、教育振興基本計画、義務教育学校、教育課程、学校の様子、学力状況等多くの議題が、十分な時間をかけ、必要に応じては指導主事等を加えて審議・協議ができている。

Ⅲ　教育委員会が管理執行する事務について

1　基本的・総務的事務

教育行政重点施策の策定等、基本方針の多くは事務局が原案や資料を提出し、教育委員会として協議や審議を行い、美咲町教育振興基本計画を基に年度ごとに重点方策を設けて推進してきている。また、近年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正等に伴い、必要と考えられる規則等について積極的に制定・改正を行っていることを評価したい。

旭地域に令和５年度、柵原地域に令和６年度義務教育学校が創設されることを受けて、第２次美咲町教育振興基本計画(H29～R3)では、対応できない事業等が出てきたため、１年前倒して第三次美咲町教育振興基本計画を策定、令和３年度から施行してきている。令和 2 年度から美咲町内全小中学校において中央地域、旭地域、柵原地域それぞれを小中一貫教育校に指定し、義務教育９年間に一貫性のある教育を研究・展開していくことを重点に取り組んでおられることを高く評価したい。

この構想の基、令和５年度から開校している旭学園の実践や旭学園を中心に活動している地域の方たちの取組が、町内外から高い評価を受けていることは衆知の事実である。

２　人的管理に属する事務

県費負担教職員の人事については、津山教育事務所と連携を図りながら、喫緊の課題である学力向上や問題行動の解決に向けた学校組織の強化は重要である。個々の教職員の指導力向上に向けて研修の充実は極めて必要なことである。校内だけの研修に留まらず、校外における研修の機会の提供や学校と教育委員会とが連携し、有益な研修を引き続き行っていただきたい。

また、今までになかった新たな問題や教職員の多忙化の対応など多岐にわたる課題に対し、校長、教頭の手腕が問われる場面は多い。その意味でも今日の学校運営は、管理職の能力とともに学校と教育委員会とが密に「情報共有」し、連携しながら、ケースによっては支援を、必要によっては指導助言等を行うことが重要と考える。その点、美咲町教育委員会は黒瀬教育長のリーダーシップのもとスピード感をもって対応できていることを高く評価したい。

特別支援教育を充実していくことはとても重要である。そのための体制づくりをしっかりしていることが基本であるが、指導を要する児童・生徒を目の前にした時、県費負担教員の配置基準による教員数だけでは指導しきれない場合、適切に町費による教育支援員の配置・負担を行っていることがすばらしい。

Ⅳ　主要事業の点検評価について

ここでは毎年同じことを書かしていただいているが、美咲の学校教育グランドデザインは基本目標「自ら学び　共につながり　みんなの夢を育む　美咲の人づくり」に向け、重点施策『小中一貫教育の推進』に取組み、「自立　共生　郷土を愛する心」を育み、美咲町の「ひと　輝くまち　みさき」を実現しようとしている。この１枚物のグランドデザインや美咲 Five Dreams プランはとても分かりやすいシートになっている。

1　重点施策

(1)　小中一貫教育の推進

〇柵原中学校区で、令和６年度の柵原学園開校に向けた定期的な研修会ができている。乗り入れ授業の研究、実施が進んでいる。

各校で郷土学習の開拓として生活科・総合的な学習の時間を中心に新たな教材を開発し、実施してきている。

探究的な学習の推進では生活科・総合的な学習の時間を中心に、探究的な学習の推進を図ることができているなど成果があげられる。今後も探究的な学びがさらに深まっていくことを望む。

〇キャリア教育の推進では例年とられている令和６年度美咲町生活学習アンケートの結果は「自分にはよいところがある」小 88%中 90%、「課題解決に取り組む」小 89%中 86%、「友達と仲良く助け合う」小 95%中 95%「将来の夢や目標を持つ」小 86%中 69%と昨年度と同じようにどの項目も高い数値を示しているが、唯一将来像については学年が上がると心配なのか夢がもてなくなるのか中学生が低くなっている。「夢育研修会」開催などの努力もされているが、何とかならないものだろうかと思う。

〇コミュニティ・スクールの推進では、旭学園学校運営協議会(年５回開催)では、４－３－２制、保・学園一貫教育、郷土学習、英語教育など特色ある旭学園の教育目標、達成したいミッション、目指す児童生徒像を共有し、「あさひの未来ワーク２０２３」として地域の魅力や課題について生徒と地域の方々と意見交換ができていることがとてもすばらしい。また、8 年生が「あさひの未来」４つの提案をする取組などこれまでにない学びや生徒の伸びを感じるものが生まれてきていて、すばらしい。

柵原中学校区学校運営協議会は令和６年度から開校する柵原学園グランドデザインを共有し、柵原ドリーム学の実践について具体的に地域と意見交換ができたことは大きい。柵原の特色をだし、学校と地域が一層強固に協働していくことを願っている。

中央中学校区のそれぞれの学校運営協議会も同じように学校と地域が Win-Win の関係を作りだす取り組みが年々増えてきていることをうれしく思うと同時に、中学校区で入園から中学校卒業まで連続した健全育成に取り組んでいることを評価したい。

(2)　義務教育学校の創設

柵原地域開校準備委員会は４つの部会で、2 小、1 中をまとめること

は大変なことも予想されるが、全力で達成されている。

前年度までにある程度の方向性をだしていたとはいえ、校章デザイン、校歌及び制服の決定、徒歩や自転車の想定通学路、スクールバス路線、停留所の検討及び通学路の危険箇所の取りまとめは大変だったと思うが、よく取りまとめられた。また、児童生徒に直接関係する各種教育全体計画・年間指導計画の修正をしたことは評価する。ご存知のように既に開校している柵原学園も旭学園同様に力強くスタートしている。

２　基本施策

（1）確かな学力プラン(知)

①授業改善の推進・学力向上の支援

令和５年度は美咲町生活・学習状況アンケートの「授業の内容はよくわかる」の肯定率は小学校では概ね向上している、中学校では数学を除いて昨年度と同等と見取れる。これは、各小中一貫教育校の探求的な学習の実践が着実に根付いてきて、定着してきていると考えてよいと思う。しかし、中学校数学だけが昨年度と比べて大きく下がっていることを考えると、生徒が数学は難しいと感じているだけでなく、授業の面白さがどうなのか？ということも十分考えてみる必要があるのではないだろうか。身近なもので考える、必要感も授業の中で感じられる、実際の生活で役にたつなど授業にひと工夫がいるような気がする。

めあて・主体的に取り組む・話し合う活動・振り返りの肯定率が８５％を越え、タブレット端末の利用についても昨年度より１０％以上活用率が上がっている状況をみると、教育委員会の適切な指導と、学校現場の先生方の頑張りが相まっての結果と受け止めた。

②家庭学習の習慣形成及び読書の習慣形成の推進

家庭学習の時間については残念ながら昨年度より「平日家庭学習を１時間以上」するが小学校６年、中学生とも大幅にマイナスの結果になっている。家庭での過ごし方、すなわちゲームやスマホ等の時間が増加すれば家庭学習の時間が減ることを意味していると言わざるをえないのである。児童生徒自身の生活習慣であるが、このことを保護者は十分認識し、学校と家庭が協働した取組を今より一歩踏み込んで取り組むことが重要と考える。

読書活動の推進は引き続き頑張っていただきたいと思う。

③特別支援教育の充実

特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりをするために、全校で校内研修を実施し、講師派遣や専門機関との連携も精力的にできている。個別

支援指導計画の作成 100%、個別計画の点検整備の実施もすばらしい。

④情報教育の推進

令和 5 年度美咲町生活・学習アンケート「毎日 1 回以上の活用」と答えた小 74，8%(＋12，1)、中 75，4%(＋13，2)と昨年度より急激に活用する機会が増えている。今までのタブレット端末を活用した授業づくり研修会の開催やタブレット端末を効果的に活用した授業公開を全校で実施してきたしたことの成果である。高く評価したい。

⑤郷土学習の充実

全校で郷土に関する総合的な学習に取り組めていることがとてもよいことである。また、地域活性化へ向けた探究的な学習の成果が全ての学校でみられていることもすばらしい。

⑥英語学習の充実

昨年度から小中一貫 9 年間の系統的な英語教育を推進するために中学校からの乗り入れ授業の実施ができていたが、今年度旭学園では時間割に位置付けた乗り入れ授業を実施している。これは凄いことだ。また、交流事業(土佐山学舎)に生徒が 14 名参加し、充実していることもすばらしいことである。英語力の向上と国際感覚の育成などを考えている美咲町はとても充実していると思う。

⑦保小接続の推進

昨年度に続き、年 3 回の担当者会や年間の保小交流や授業、保育実践の参観・体験研修を実施したことや小学校ごとに保育体験や参観を行い、次年度のスタートカリキュラムを作成・実施できている。

（2）豊かな心プラン(徳)

①人権教育・道徳教育の充実

日頃から人権意識をもち、人権感覚を高める環境の整備は大切である。令和 5 年度も人権週間に合わせ、全校で道徳の授業公開を行ったことを評価しておきたい。

②協同的な人間関係づくり

費用はかかるが、質問紙調査「hyper-QU」で学級満足度・学校生活度尺度・ソーシャルスキル尺度を用いての客観的データを活用することは、学級経営、人間関係づくりでは有効である。小学校も中学校も満足度が前学期より増えプラスになっていることは良好な学級集団ができているということの証でもある。認め合い支え合う学級集団づくり、学校づくりの基盤を大切していただきたい。

③いじめ・不登校の対応

目標はいじめ解消率100%、この数字に近づくことを願う。令和５年度は小学校15件、解消率100%、中学校5件、解消率80%と記述してあった。件数が前年度よりも小学校で－9件、中学校で－5件と大幅に減った。実態把握と早期対応、そして関係機関との連携が十分なされたのだろう。

長期欠席・不登校については、美咲町に限ったことではないが、出現率が増える一方だ。何としてでも出現率を減らしたいと思う。結論から言うと、是非とも小学校でこの対応を頑張ってもらいたいと思う。小学校で不登校児童が増えると、中学校入学時から現存することになる。そうなると益々増えていくことになるからである。

教育委員会、学校どちらもいろいろな対応策で取り組んでいただいていることは重々承知しているが、今後もどうか粘り強く頑張っていただきたい。

（３）健やかな体プラン(体)

①生活習慣の確立及び健康教育の推進

基本的な生活習慣の確立で大切なことは、時間を守り、朝食は勿論3食をしっかりとり、十分な睡眠をとることである。令和6年度全国学力・学習状況調査「朝食を毎日食べる」結果では、小95，7%、中93，9%と非常によい数値であった。ところが令和5年度美咲町生活・学習アンケート「一日の睡眠時間」は小8時間以上55，0%、中59，6%と睡眠時間の目標指標と児童生徒の実態とは大きくかけ離れていると言わざるをえない。大リーグで活躍している大谷選手は十分な睡眠時間をとることを重視していると聞く。特に睡眠時間の確保が体調維持には重要なことを教えてくれている。そう考えると十分な睡眠時間の確保こそ大切なのであるから、引き続き取組を粘り強く取り組んでほしいと思う。

スマートフォンの利用時間が増えることは、児童生徒の健康を考えると睡眠時間が減るので好ましいことではない。確かに児童生徒自身が主体的に解決していこうとする取組もなされているが、家庭のルールづくりも大切である。

②体力・運動能力の向上

この項目では昨年度県平均以上で小学校5年は男女共に高く、中学校2年においては大きく向上し高いと大変喜ばしいことであると記述した覚えがある。年度が違えば、或いは学年、対象者が違えばこれほど結果が違うのか驚いた。

令和5年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査「体力合計点」は小学5年男子高い、女子低い、中学2年男子低い、女子高いという結果だった。また、「体育の授業は楽しい」ということについては小学校5年男

子低い、女子高い、中学2年生男女とも低いという結果だった。

「体力合計点」と「授業が楽しい」との相関関係があると考えていたが、アンケートの結果からはそのようにはなっていない。どう考えたらよいのだろう。言えることは小学5年女子以外体育の授業が楽しくないと答えている児童生徒が多いので、そこは体育の授業を楽しくする必要があるということは間違いない。

（4）美咲町立学校教育職員の働き方改革

昨年度同様本年度も学校教職員の働き方改革を応援・支援・推進を美咲町教育委員会は真摯に受け止め、指導や設備の整備・業務支援等をしていただいている。学校閉庁日の年 14 日実施、定時退庁日の月 1 回以上の実施、総合型校務支援システムによる成績処理等の業務支援、美咲町部活動ガイドラインの部活動休養日等の実施などである。そのような町教育委員会のフォローがあり、1年間を通じ、超過勤務時間平均45時間を全学校で下回ることが達成でき、とてもすばらしい。だからこそ各々の教員は、自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、児童生徒に対して効果的な教育活動を行うことを頑張ってほしいのである。

V　おわりに

10 月 10 日（木）～11 日（金）2 日間にかけて第 73 回全国へき地教育研究大会岡山大会が開催された。第 2 日目の県内 5 会場の一つに旭学園が選ばれ多くの参加者が訪れた。

数年前までは人口減少で子どもの数もどんどん減り、学校の存続が危ぶまれていたこの地域に全国から約 150 人の先生たちが押し寄せて来たのである。明治に学校というものが創立して約 150 年間になるが、この地で研究会を開催し、そこに 150 人もの先生方が集ったのはおそらく初めてではないかと思う。この旭学園の実践こそが、今全国の学校と地域の関係の最先端を行っている証だからと思う。そう考えるとこの地に義務教育学校を建てることに信念をもって取り組まれた卓越した識見と柔軟な発想、そして事を成就させるエネルギッシュな行動力の黒瀬教育長の存在が如何に大きいか分かる。今年 4 月に開校した柵原学園も視察者が頻繁にあると聞く。まさに美咲町という町が教育で活性化しだしているのだと言えるのではないかと思う。

今回私は 3 回目の評価をさせていただいたが、昨年度同様美咲町教育委員会及び美咲町の教職員が、真摯にしかも全力でその職務に取り組んでいることを確認でき、その取り組み方、姿勢に心から敬意を表したい。

郷土美咲に誇りをもち、未来をきり拓いていく子どもたちが力強く、生き生きと育っていくことを切に願っている。